

国有林における NPO団体等活動発表会



発表会プログラム

●主催者挨拶 13:30~13:35 北海道森林管理局長 津元 頼光

基調講演 13:35~14:15

「ネットワークから生まれる森づくり活動の新しい可能性」

認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク〔通称:きたネット〕／宮本 尚

活動発表

発表1 14:15~14:30 野幌森クラブ／尾崎 脩

〔石狩地域森林環境保全ふれあいセンター／渡辺〕

発表2 14:30~14:45 オホーツクの会／吉田 昭義

〔常呂川森林環境保全ふれあいセンター／菊地〕

発表3 14:45~15:00 雷別ドングリ倶楽部／清水 信彦

〔釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター／宮本〕

発表4 15:00~15:15 函館の森林の再生と活用を考える会／木村 マサ子

〔駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター／後藤〕

～～～ 休 憩 15:15~15:30～～～

～～～ 質疑応答／意見交換 15:30~16:00～～～

●お礼の言葉 16:00～ 北海道森林管理局計画部長 平野 均一郎

日時 12月8日(土) 13:30~16:00

場所 札幌市教育文化会館 講堂(4階)〔札幌市中央区北1条西13丁目〕

主催 林野庁北海道森林管理局

基調講演

宮本 尚〔ミヤモト ナオ〕

【略歴】

オホーツクエリアを転々として育つ。原風景はオホーツクの海岸線と北の森の中にある。神奈川県を卒業後、コピーライターとして広告業界で働いた後、三鷹市社会福祉協議会で障がい児（者）緊急一時保護事業のマネジメントと介護、ボランティアセンターの職員などを務める。自然の多い所に戻りたくて、2000年に札幌にUターン。2005年から「きたネット」事務局。北海道の良さを再認識し環境保全について考える日々。

【講演要旨】

きたネットの森林保全活動団体のネットワークによる森づくり活動と、コープさっぽろが連携して取り組んでいる森づくりの人材育成活動について報告します。

活動発表（要旨）

発表1 野幌森クラブ／尾崎 脩〔オザキ オサム〕

平成16年9月、台風18号により野幌森林公園では77haに及ぶ風倒被害を受けました。

北海道森林管理局は、被害を受けた野幌の森林を100年前の原始性が感じられる自然林に再生するため、多くの市民と協働し「野幌森林再生プロジェクト」を開始。その一環として「団体型森林づくり」としてNPO、企業、大学など現在11団体が協定を締結し、計画的、継続的に植栽、下刈りなどの森林づくりに参加しています。

一方、野幌森クラブは平成12年に「野幌の森を利用している人々と一緒に森の環境を考え、行動する」ことを目的として発足しました。活動内容は1：森の再生、2：森の住人の保護、3：森の利用者との連携・交流などの多岐にわたっていますが、平成17年より、この「団体型森林づくり」に参加し、台風で傷ついた森の再生に協力しています。クラブの目標である「人間と生態系との持続する共生の森の創出」を目指して活動を続けています。

発表2 オホーツクの会／吉田 昭義〔ヨシダ アキヨシ〕

今私たちには、森林が持つ機能を十分発揮できるよう環境を整備し生物の多様性を維持することが求められています。

一方、当たり前のように自然豊かなオホーツク地域の環境の中で日常生活を送っている私たちにとって、イメージでは“自然は素晴らしい、大切なもの”と感じてはいるものの、実際に足を踏み入れて森林を知る機会や森林づくりに携わる機会はそう多くはありません。私たちはこのような背景を基に、身近にある森林に触れ・親しみながら、森林について学び、在るべき森林づくりの手助けをし、その輪を広げていくことを目的に市民ボランティアを立ち上げました。

その森林ボランティア「オホーツクの会」について、発足時の状況、活動の目的、組織・運営、活動を発展させつつある現状、そして今後の課題などについて発表します。

発表3 雷別ドングリ倶楽部／清水 信彦〔シミズ ノブヒコ〕

雷別地区国有林は、釧路湿原にある三大湖沼の一つ「シラルトロ沼」の最上流部に位置する国有林です。ここには、70年生を超えるトドマツ人工林が広がっていましたが、平成12年の冬、多くのトドマツが立枯の被害に遭いました。この立枯の原因は、冬季に土壤凍結が深くまで発生し、根からの給水ができない状態でトドマツの葉が蒸散をしたことにより、通導組織が回復不可能な空洞化を起こしてしまったため、蒸散が多くなった夏季になっても吸水が追いつかず枯れたと推測されています。立枯の跡地は、現在でも笹が生い茂るだけの疎林状態となっています。

雷別ドングリ倶楽部は、この立枯跡地で、広葉樹を主体とした植樹活動や、植樹活動に使用する種子の採取、苗木育成などの森林再生活動を行うボランティア組織として立ち上げられました。現在は年5回の活動で、森林再生活動だけではなく、間伐等の林業体験や森林環境教育に係る体験活動なども実施しており、幅広い年齢層に受け入れられるような活動を展開しています。

発表4 函館の森林の再生と活用を考える会／木村 マサ子〔キムラ マサコ〕

2003年、函館山のスギ林を「市民参加で手入れし、その間伐材を利用してツリーロードを作りたい」と思い新聞で呼びかけ、賛同した市民が集まり行動を起こしました。このスギ林は函館山国有林の学校林で、2006年から「再生と活用」をテーマに多様な活動を始めることとなりました。学校林の間伐材等を利用し、市民ツリーやベンチ等の作成、ミニ魚礁の設置を行いました。また、「森を知る活動」として保育園児のクラフト教室や間伐作業見学、虫害の調査などを実施、「森を育てる活動」として七飯町大沼の吉野山国有林で森林環境保全ふれあいセンターが行っている「大沼地域自然再生等モデル事業」に参加し、下刈りや保育間伐、植生調査等を行いました。その他の活動として、海岸漂着ゴミの回収や緑の羽根募金活動などを実施してきました。活動10年間で振り返ると、「間伐材でツリーを立てる」という単純な発想で始めた活動でしたが、「森を知り、育てる」ための多くの技術を体験し知識も得ました。

今後も、林業体験で得た技術や知識を生かし「森を知り、育てる」「森や山を好きになる仲間を増やす」活動を続け、更に「大沼地区の自然再生事業」に関わることで森に関する勉強をし、楽しみながら活動を続けて行きます。